

(令和3年10月試験研究業務月報)

試験研究課題：農地土壌炭素貯留等基礎調査（有機物連用試験）

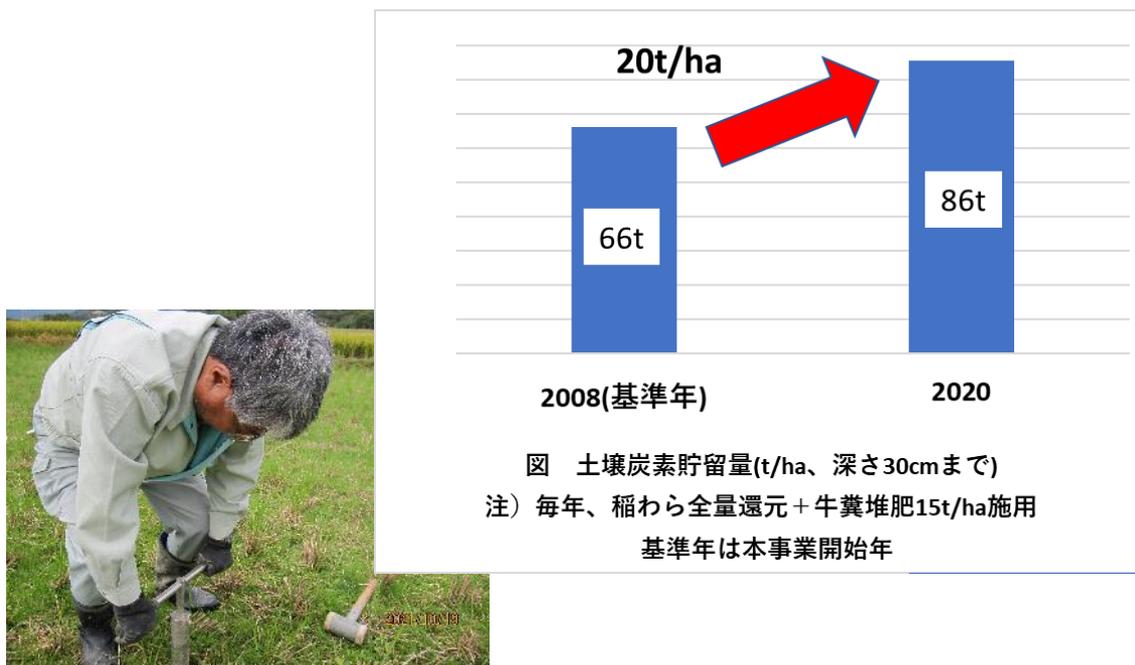
研究

農地に炭素を貯留し地球温暖化防止

地球温暖化緩和対策として、農地を炭素の吸収源として位置づけ活用するには、農地の炭素貯留量を算定する必要があります。

そこで、普及センターの協力を得て、定期的に土壌に貯留される炭素量を調べており、今年度は中丹地域の水田と樹園地及び農林センター水田（1975年から有機物を継続施用）における調査をすすめています。

2008年から2020年の間に炭素貯留量は20t（haあたり）増加し、この量は日本国民1人あたりのCO₂換算年間排出量の7.4倍に相当します（日本国温室効果ガスインベントリ報告書2021参照）。



採土器による深さ30cmまでの土壌採取（10月18日：舞鶴市）と

土壌炭素量の分析（農林センター）